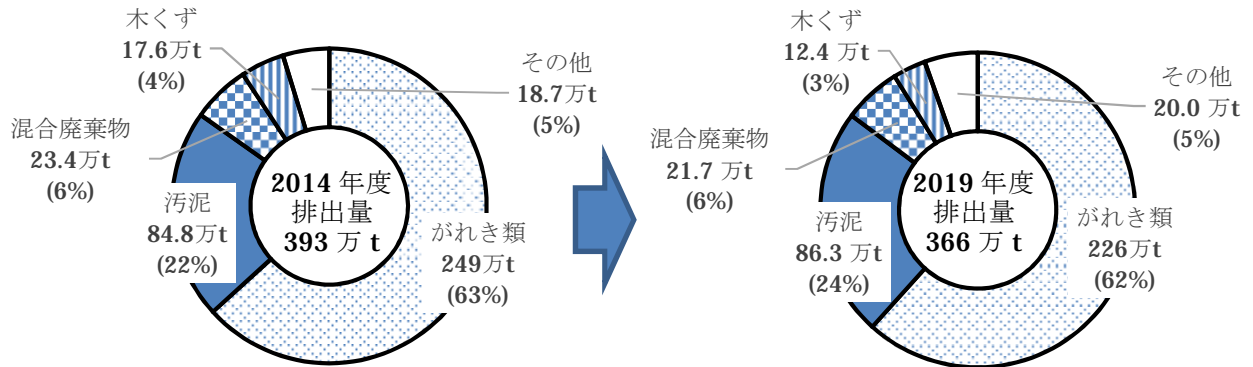


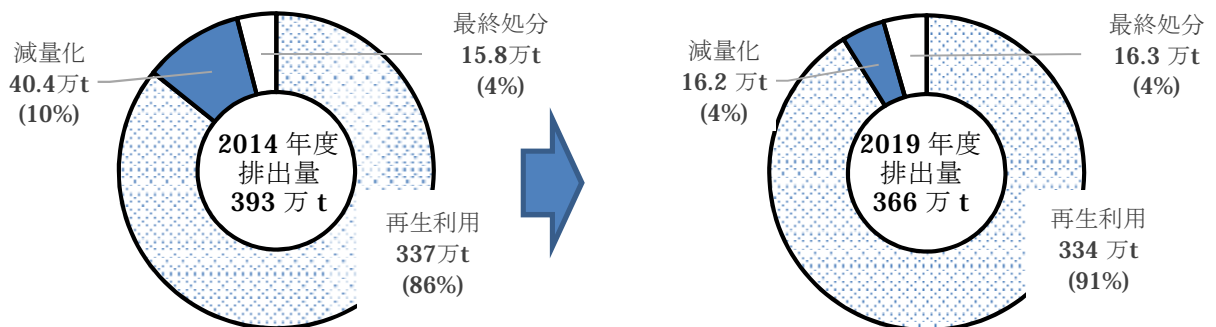
建設系廃棄物について

1. 概要

- 建設系廃棄物の排出量は 2014 年度の 393 万 t から 2019 年度の 366 万 t と減少した。
- 再生利用量は 2014 年度の 337 万 t から 2019 年度の 334 万 t と微減（再生利用率は 2014 年度の 86% から 2019 年度の 91% と増加）、減量化量は 2014 年度の 40.4 万 t から 2019 年度の 16.3 万 t と減少、最終処分量は 2014 年度の 15.8 万 t から 2019 年度の 16.3 万 t と微増であった。



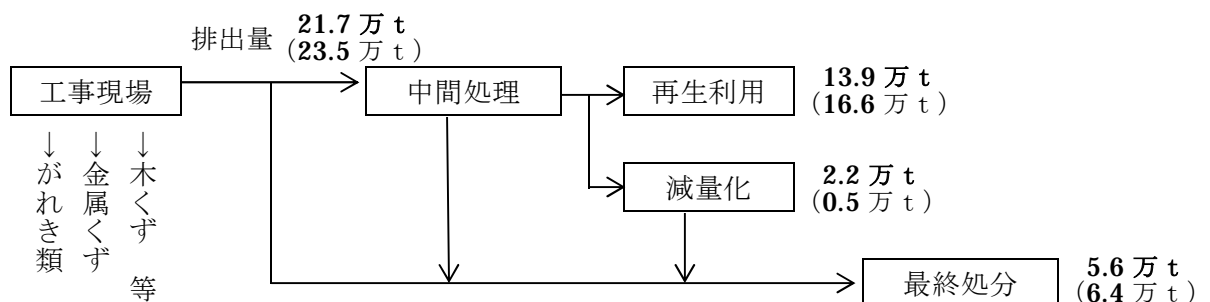
建設系廃棄物の廃棄物種別の内訳



建設系廃棄物の処理の内訳

2. 建設混合廃棄物

- 混合廃棄物は、がれき類、金属くず、木くず、紙くず等が、工事現場において工期や費用、保管場所の制約等の理由から分別されずに、混合状態で排出されるものである。
- 混合廃棄物の一部は、工事現場から直接、最終処分されるが、大半は中間処理施設で再度品ごとに分別され、再生利用されるものと減量化、最終処分されるものに分けられる。



建設混合廃棄物の処理の流れ

上段 : 2019 年度の実績値
下段 : 2014 年度の実績値

- ・ 排出段階（工事現場）においては、混合廃棄物の排出量は 2014 年度の 23.5 万 t から 2019 年度の 21.7 万 t に減少した。
- ・ 混合廃棄物の最終処分は 2014 年度の 6.4 万 t から 2019 年度の 5.6 万 t と減少した。
- ・ 混合廃棄物よりもがれき類などの種類ごとに分けたものの方が再生利用率は高い。
- ・ 混合廃棄物の再生利用率は、2014 年度の 71% から 2019 年度の 64% と減少している。

